

ICTを用いて調べ学習と発表をし、情報活用能力を育てる

調べ学習～発表

評価基準



学習者と一緒に

知識
技能

思考判断
表現

学びに
向かう力

概要

学習者はテーマについて調べ、各自もしくは共同編集機能を用いてグループでまとめを作成します。発表の際は、対面だけでなくチャットやコメント、いいねで反応します。

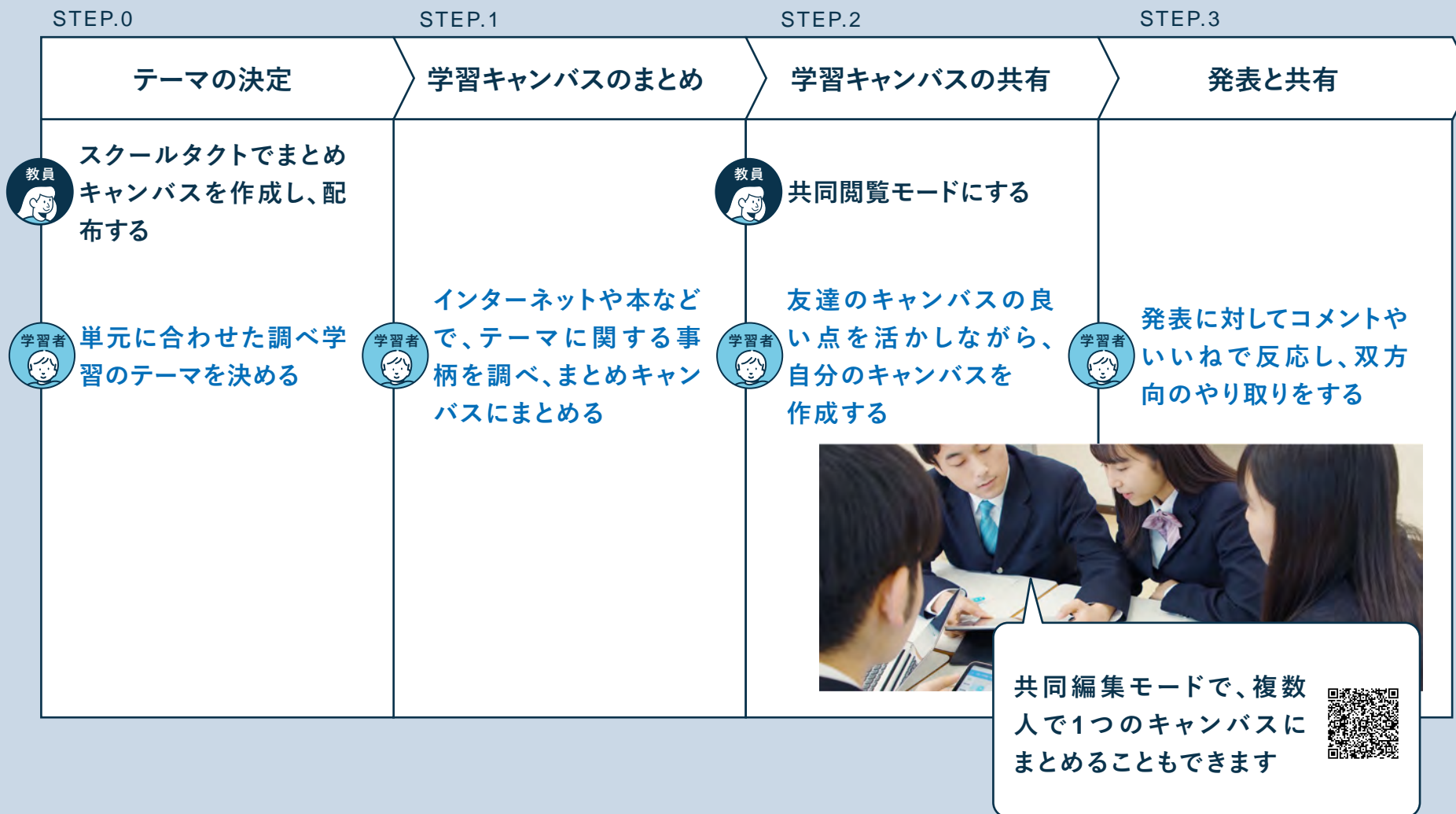


導入効果

- 1 学習者は情報を効率的に集約し、ビジュアルやテキストでまとめることができる
- 2 発表中にもコメントをし合えるので、限られた時間でも双方向のプレゼンが可能
- 3 発表資料・意見交流までの記録と過程が、まとまったポートフォリオとして手元に残る



実施STEP



小学校/生活の活用事例『野菜名人になろう』

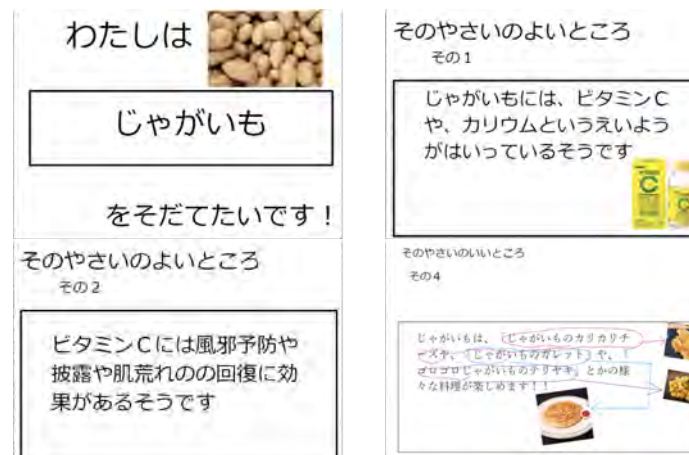


取り組み概要

各学習者が育てたい野菜について調べ、自由にキャンパスを追加しながらまとめ、プレゼンをする。

ポイント

常時共同閲覧モードにして、お互いに真似したいところを探して自分の発表に活かすよう伝え、毎時間意見交換の時間を設けました。育てる野菜の決定も、いいね機能を匿名モードにして皆で決めました。



工夫と効果

調べてまとめる視点は、時期・栽培のしやすさ・収穫量・栄養・おすすめポイントなど、学習者により様々です。

学習者はリアルタイムで交流して友達の視点を取り入れながら、どんどん調べ学習を進めていきました。内容の変化や学習者同士のやり取りを、教員側も常に把握できるので、適切な声掛けができます。

中学校/社会での活用事例『第二次世界大戦と日本』



取り組み概要

第2次世界大戦の単元のまとめとして、その感想と関係図を作る授業を行いました。お互いに感想や関係図を閲覧しながら作業することにより、理解を深めました。

また、教員からはスタンプ機能やコメント機能で学習者の評価、アドバイスをしました。

工夫と効果

感想では、ワードクラウド機能を使って、どのようなワードが多く出ているか瞬時に示すことができます。各国の概念図作成にあたっては、自分なりに調べて、概念化しまとめるという一連の作業を行いました。学習者それぞれが、視覚的にも工夫をこらしてまとめました。

